



Sagor för barn på svenska

berattelser.se

✕フリスケ

Skriven av: Ann Nduku

Illustrerad av: Wiehan de Jager

Översatt av: kiki!

Denna saga kommer från African Storybook (africanstorybook.org) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons

[Erkännande 3.0 Internasjonal Licens.](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv)

<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv>

✕フリスケ



✎ Ann Nduku

🗉 Wiehan de Jager

📖 kiki!

🗣️ Japanska

|| nivå 3





昔むかしある所に仲よしのメンドリとワシが
おりました。メンドリとワシは他の鳥達とも
仲よしでしたが、どの鳥も飛ぶことは出来ま
せんでした。



ワシの翼の影が地に映るたびに、メンドリは
雛に「さあ、荒野から出て行って!」と言う
ようになりました。そして雛達はこう答える
のです。「間抜けじゃないから、走って逃げ
るよ。」

次の日ワシがメソトリの所に行くと、メソトリは砂を掻いている所を見つけた。しかし、針は見つからなかったようです。そこでワシは素早く下降し、一匹雞をわしづかむと持ち去っていきました。それからというものがワシが表れる度に、針を見つけたため砂を掻いているメソトリを見かけるようになったといふことです。



ある日この地に飢饉が襲いました。このためワシは食べ物を探しに遠くまで歩かねばならなくなり、クタクタになって戻ってくるので「食べ物を探しに行くのに簡単な方法があるはずだ！」とワシは言いました。



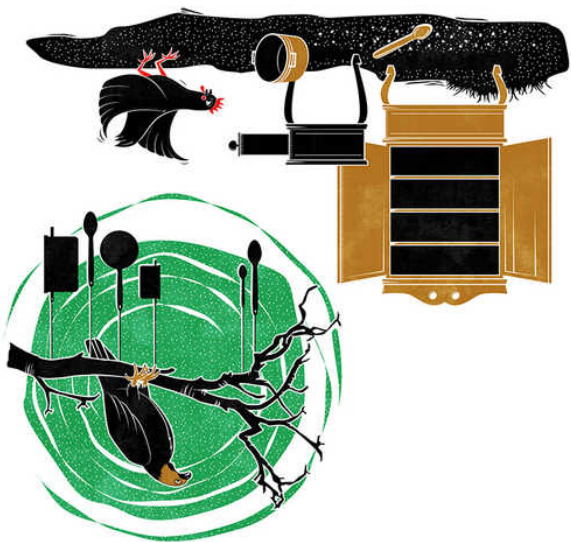


一晩明けメンドリは素晴らしい考えを思いつき、他の鳥の抜け落ちた羽を集めてこう言いました。「抜け落ちた羽を自分の羽に縫い付けば、食べ物探しがたやすくなるだろう。」



メンドリはワシに「一日時間をください。そうすれば翼を直し、また食べ物探しに飛ぶことができるでしょう」とお願いをしました。「一日だけだ。針が見つからなかったら、その代わりに雛の内一匹をいただくからな」とワシは答えました。

その日の午後遅く、ワジは戻るなりメソドリに、「食へ物探して緩んでしまった羽を直したいから、針を使いたい」と言いました。メソドリは戸棚を、台所を、そして庭を探しましたが、針はどこにも見当たりませんでした。



ワジはその集落で唯一針を持っておりましたので、初めに縫うことになりました。ワジは美しい翼を一組自身に飾り付けると、空高く飛んでいきます。メソドリは針を借りたもののすぐ縫うのに飽きてしまいましたので、戸棚に針を置き、雛達に食へ物を用意するために台所へと向かいました。





一方他の鳥達はワシが飛んでいるのを見て、メンドリに「ワシと同じく翼をこしらえたいから、針を貸して欲しい」と頼みました。ほどなく空の至る所に飛ぶ鳥達を見かけるようになりました。



さて、最後の鳥が借りた針を返しにいくと、メンドリはそこにいませんでした。そこで、メンドリの雛達は針で遊び始めました。遊びに飽きると針を砂地のどこかに置いていってしまいました。